
第2回意見交換会まとめ資料
(各地区の意見)

練馬区退院連携推進事業

1. 退院に向けての情報共有及び連携の機会

テーマ	練馬地区	石神井地区	大泉地区	光ヶ丘地区
病院の連携窓口について	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院の連携窓口がわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院の連絡窓口がわからない ● 担当している利用者の病室を把握するのが難しい（現状では家族に聞くか、病棟に行かないとわからない） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院の連携窓口や指示系統がわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院の連携窓口がわからない
情報共有の仕組みについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 在宅側のキーパーソンに情報を共有するツールがない（在宅側のキーパーソンが決まっていないことも多い） ● 入院の時期によって問題が変わってくるが、その変化を共有する仕組みがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ケアマネと病院との連携がうまくいっていない ● 退院時に誰が担当のケアマネなのかかわからず、誰と連絡を取ればいいのかわからない ● 病院としては入院時に担当ケアマネを把握したい。入院時にケアマネが誰なのか病院に伝えるように患者に教育して欲しい 		<ul style="list-style-type: none"> ● 多職種間での情報共有の仕組みがない ● ケアマネにも診療情報提供書を共有して欲しい
退院前カンファレンスについて		<ul style="list-style-type: none"> ● 退院前カンファレンス議事録はカンファレンス終了時に間に合わない場合は渡されていない。また、欠席者には渡されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 退院前カンファレンス議事録が共有されていない ● 医学的な情報以外に患者の周辺の情報を得るのが難しい ● 病院からもらうのは退院までの情報だが、それだけではこれからのことを考えるには不十分。情報をもらったうえで、これからどうするかを検討する場が必要。食べられるのかどうかなど、生活に係る情報の方が重要ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 退院前カンファレンスの議事録が共有されていない

2. 情報共有関係書類

テーマ	練馬地区	石神井地区	大泉地区	光ヶ丘地区
医療連携加算情報提供書について	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療連携加算情報提供書の各病院での提出先や提出するタイミングがわからない ● 医療連携加算情報提供書の書類（記載項目）が統一されておらず必要な情報が抜けていたりするので、共通フォーマットがあった方が良い 			
診療情報提供書および看護サマリについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 診療情報提供書と看護サマリに関しては、多職種(特に在宅側)で共有できる仕組みがない ● 在宅医から入院時にすぐに患者に関する診療情報を提供することが難しいときがある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 他職種の情報が共有されていない ● 看護サマリは訪問看護以外のデイサービス、デイケアなどへの情報提供があまりされていない（退院後に訪問看護が介入しない場合は看護サマリを作成しないケースもある） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 他職種の欲しい情報が共有されていない ● 看護サマリは看護師間でやりとりされるので、訪問看護が入っているとケアマネ側はその情報を得られない。訪問看護がないときは、共有してもらえることがある ● 関係者全体に診療情報提供書が共有されない 	<ul style="list-style-type: none"> ● ケアマネにも診療情報提供書を共有して欲しい ● 診療情報提供書の共有、取り扱い方法についての決まりが定まってない
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護事業所むけの情報提供書のフォーマットがない 		<ul style="list-style-type: none"> ● 患者さんが複数の医療機関にかかっている場合に医療情報が集約されてない。主治医に書いてもらってはいるが、漏れる情報がある。その結果、訪問看護側で情報を集約している 	

3. 在宅療養環境の整備・調整について

テーマ	練馬地区	石神井地区	大泉地区	光ヶ丘地区
家族について	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者の家族の理解が十分でないときがある ● 入院中に在宅側が説明する機会が十分でない（説明の機会やタイミングについて患者・家族が理解していないことがある） ● 家族が説明の際に来ないことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族に退院後のイメージ、準備を十分にしてもらう余裕がない 		
家屋について	<ul style="list-style-type: none"> ● 家屋の問題で在宅に戻るのが難しいときがある 	<ul style="list-style-type: none"> ● ケアマネのついてない方が入院した時は、入院中の家屋の状態を確認するのが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 入院時に患者は外出という形で行うので、家族が送迎をしなくてはならず、家族の負担が多い。そのため家族は入院中の家屋調査には消極的になりやすい ● 家屋調査は様々なコストがかかる。そのため、関わる人で連携してその負担を減らせないか（ケアマネの方が訪問したときに写真を撮るなど） ● 家屋調査が必要な患者かどうか、ケアマネから助言など（病院側では判断が難しい） 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> ● 医師からの在宅療養についての説明が不十分で、患者さんや家族が理解しないまま退院となるケースがある。 ● 退院前からケアマネとの連携がうまくいかず対応が後手になってしまうことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 入院中から退院を見据えた他職種による早期介入ができていない ● 諸々の状況で家に戻れないケースがある。高齢者が療養できる環境が足りていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 訪問看護指示書を外来として医師に書いてもらおうとする事務手続きが厳しい（委任状、身分証明書など）

4.地域の社会資源情報、5.医療・介護保険の知識・情報、6.地域交流・学習の機会

テーマ	練馬地区	石神井地区	大泉地区	光ヶ丘地区
<p>4.地域の社会資源情報について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 老健のMSWが受け入れられる患者さんの状態などについての理解が不足している ● 在宅と老健との連携が取れていない意見交換をする場がない ● 高齢者相談センターが持っている情報を周知されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 老健ごとの医療依存度の制限などに関する詳細な情報がない ● 小児・精神は社会資源そのものも情報もない ● 社会資源に関する詳細な情報がない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 老健の入所が難しく、探すのが困難 ● 老健側から施設の状況（空き状況、何人入所待ちなのか）を発信する仕組みがないので、入所者を選んでいると言われてしまったりする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 老健に関する詳しい情報がない（老健ごとの細かい受け入れ条件が不明確）
<p>5.医療・介護保険の知識・情報について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 無料の医療保険に関する勉強会が少ない ● 医療保険に関する研修が1日ばかりで参加しづらい 		<ul style="list-style-type: none"> ● 複雑な制度を十分に理解している人が少ない ● 気軽に分野横断的に聞ける場所がない ● 行政側にそうした横断的な内容の質問に答えられる人を配置されていない（現状では所管部署が分かれており、横断的に回答する人はいない） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院として在宅療養に関する知識が不足している
<p>6.地域交流・学習の機会について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 職種毎の事例検討会が不足している ● 患者の家族がレスパイトの存在や本来の目的を理解していない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者、家族に対する学習(急性期病院の在り方、ケアマネの利用、在宅医療など)の機会が十分ではない。 ● 啓発活動の回数が不十分で市民の意識が薄い（その時にならないと関心を持たない） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者の家族など誰でも参加できる勉強会が足りていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事例を振り返る機会があまりない